

令和4年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和4年 2022年 12月値・要約版)

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴があるのかを分析しています。詳細はたつの市商工会HPで公開しています。

(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

産業全体の景気動向の推移

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す
(調査事業所4、「好転」事業所1、「悪化」事業所3なら、25%-75%=-50%がDI値)

<概要>

最新の日銀短観(2022年12月)の調査結果によると、中小企業の業況判断DIは足元では予想を上回っていたものの、「先行き」の景況については悪化が見込まれ、特に非製造業においてその幅が大きかった。物価高、円安など中小企業の先行きへ影響を及ぼす懸念材料は依然として複数存在する。2022年10月28日に閣議決定された「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」には中小企業に対する支援策なども盛り込まれているが、これからも中小企業向けのきめ細かな支援、サポート体制の継続が必要となる。

<地域別>

【全国】

2022年10-12月期の全産業における業況判断DIは、▲27.7(前期差2.8pt増)となり、前期から回復。製造業の業況判断DIは、▲31.9(前期差5.6pt増)となり、前期から回復した。建設業の業況判断DIは、▲27.9(前期差0.4pt増)となり、前期から回復した。商業の業況判断DIは、▲36.1(前期差2.7pt増)となり、前期から回復した。サービス業の業況判断DIは、▲14.7(前期差2.7pt増)となり、前期から回復。前期に比べて全体的に回復しているが原材料高騰は依然として続いており、価格転嫁が出来ていない。

【兵庫県】

企業の業況判断は足もととは横ばいだが、先行きは悪化すると見込んでいる。個人消費は持ち直し、輸出も増加している。設備投資は増加傾向にある。生産は持ち直しの動きとなっている。有効求人倍率は前月を下回り、雇用者所得は弱めの動きとなっている。倒産件数は前年を上回った。

【西播磨】

西播磨全体の業況は、▲31.9(前期差8.1pt増)となり、前期から回復。売上高は、▲25.4(前期差11.7pt増)となり、前期から回復した。採算状況が、▲44.9(前期差4.2pt減)と悪化、資金繰りは、▲31.2(前期差6.9pt減)となり、前期から悪化した。来期は、▲42.0(前期差5.6pt減)で悪化する見込みとなっている。全国と比較しても一部悪化傾向となっている。

【たつの市】

たつの市の業況は、▲26.0(前期差0pt)となり、前期と同様。売上高は、▲24.0(前期差0pt)となり、前期と同様。採算状況は、▲48.0(前期差4pt増)となり前期から回復した。資金繰りは、▲28.0(前期差2pt増)となり、前期から回復した。来期は▲28.0(前期差14pt増)で回復するとの見通しとなっている。

前期に引き続き、原材料の高騰による仕入値や商品価格の改定が次々となされ、各業種においても価格転嫁出来ない事が経営を圧迫しており、先行きが見通せない状況である。

<業種別業況>

全国的には、12月期の産業全体の業況は、全DIが小幅に改善した。特に売上額DIはプラス水準となり、直近1年で最も高い数値となった。年末イベント需要の増加から売上額DIを中心に改善傾向の業種が多い。また、行動制限緩和が続いており需要の停滞は脱しつつある。その一方で全業種においてコスト高騰や人手不足が課題となっており、採算性の悪化から事業整理や廃業という選択をした事業者もいる、とのコメントが見られた。

<総括コメント>

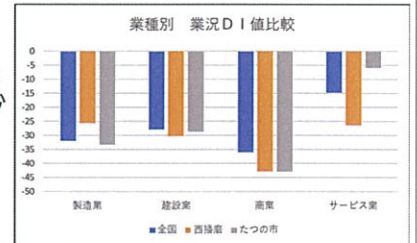
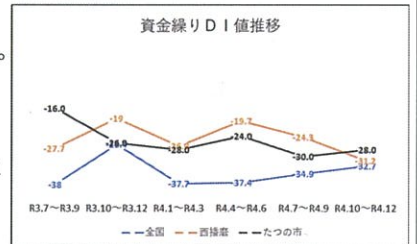
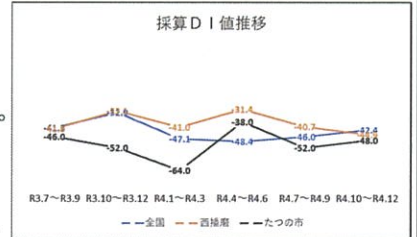
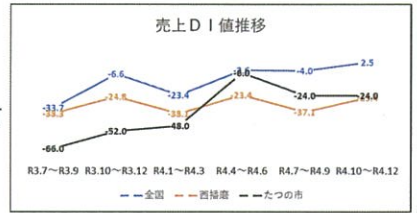
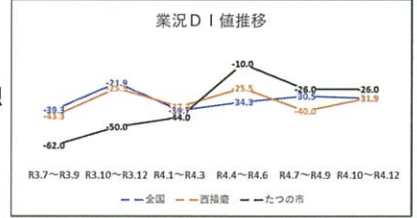
国内景気は、緩やかに持ち直している。先行きについてはウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要がある。

たつの市においては、人流が多い地域柄、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いつつ、事業者においては早急な経営の立て直しと合わせ、政府の経済対策(小規模事業者持続化補助金・ものづくり補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

管内の雇用情勢

<用語説明> 有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数
(仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

令和4年12月期の有効求人倍率は、全国1.35倍、兵庫県1.06倍、龍野管内1.26倍となっている。たつの市は増加傾向であるが、兵庫労働局は足元の雇用情勢についての判断を据え置き「求人が求職を上回っているものの、持ち直しの動きに足踏みがみられる」とした。さらに「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」と指摘。「新型コロナウイルス感染症等が雇用に与える影響に」としていたが、新型コロナの影響は薄れてきたと判断した。



有効求人倍率推移

